

# 脳神経外科

## 診療科の紹介

当院の脳神経外科は昭和53年の開設以来、救命救急センターの要として機能してきました。現在においても、北九州の地域医療の一翼を担うため、脳卒中および頭部外傷救急を中心とした救急診療に24時間体制で取り組んでおります。

現在、常勤医師3名と非常勤医師2名が在籍し診療に当たっております。脳梗塞に対する超急性期治療や緊急手術を要する脳卒中、頭部外傷に迅速に対応するために、救急救命センターでは初期対応から診断、治療に至るまで、24時間体制で専門医による診療を行なっております。

## 取り扱う主な疾患

■脳卒中全般：脳梗塞に対する超急性期再開通療法、脳出血、くも膜下出血、未破裂脳動脈瘤、脳動静脈奇形、内頸動脈狭窄症、頭蓋内動脈狭窄・閉塞症、もやもや病など。

■頭部外傷

■片側顔面痙攣、三叉神経痛

■その他：脳腫瘍、水頭症など。

## 当科の特徴

■一次脳卒中センター(PSC)

一次脳卒中センターとして24時間365日脳卒中患者を受け入れる体制を整備しています。脳梗塞の超急性期にはrt-PAを用いた血栓溶解療法を施行し、機械的血栓回収の適応がある場合には産業医科大学と連携して治療を行なっています。

■脳血管外科手術、ハイブリッド手術

脳卒中の急性期治療から、脳卒中の発症を未然に予防すべく脳血管バイパス手術や脳動脈瘤クリッピング術、内頸動脈内膜剥離術などの脳血管の外科治療を安全に実施しています。MRIや最新鋭の256列のCT装置、3次元画像解析システムを活用して精度の高い術前シミュレーションを行なうことで、安全で効率的な手術のプランニングを行なっています。さらに脳血管造影検査やCT検査を手術中に実施することで、難易度の高い脳血管外科手術を安全に行なうことが可能なハイブリッド手術室を導入しています。

■術中神経モニタリング

手術中に運動神経や運動中枢、聴力、脳幹のモニタリングを行なうことでより安全な手術に努めています。

■片側顔面けいれん・三叉神経痛

片側の顔面の筋肉が自分の意志とは関係なく(不随意に)ピクピクと動く片側顔面痙攣の診断、ボトックス治療、根治治療である神経血管減圧術を行なうことができます。

また、発作的な顔面の激しい痛みが特徴である三叉神経痛に対しても薬物治療、神経血管減圧術を行なうことが可能です。

## 令和4年度 診療実績

脳動脈瘤クリッピング術	4件
頸動脈内膜剥離術	8件
脳動脈バイパス術	3件
頭蓋内血腫除去術(脳内)	5件
頭蓋内血腫除去術(硬膜下・外)	3件
脳室腹腔シャント術	6件
慢性硬膜下血腫	17件
その他	25件
脳卒中の入院患者数	141名

## スタッフ紹介



脳神経外科主任部長  
高松 聖史郎  
たかまつ せいしろう



脳神経外科副部長  
佐藤 甲一郎  
さとう こういちろう



脳神経外科副部長  
野村 得成  
のむら のりあき